



遊びで育む教育

猛暑が続いております。園でも、熱中症に対する配慮・対策を職員で確認する毎日となっています。

さて、ご存じのように、幼保連携型認定こども園は法的に学校と位置付けられている施設です。このことから、本園では教育・保育を三学期制で行うと園則に示されています。本日、一学期の終業式が幼児部で行われ、一号認定子どものお子さんからは明日から長期の夏季休業に入ります。

218名の在園児は皆、一学期間、自ら遊びに向かうことにより、様々な経験しました。うまくいかないこと、何かに気づいたこと、出来るようになったこと、勇気を出してみたこと、などなど、人格を形成するための基礎を遊びという行為で学習し続けたのです。

好奇心をもって、やってみたい、やってみようと思中になる学習（遊び）は本当の力になります。同じことを何回も、何日も繰り返すことで、身に付き、満足感も得られ、次もやってみようとする意欲も生まれます。

成果がすぐに表れないこと、点数による評価が出来ないこと、などで、乳幼児期の遊びが学習としてなかなか認められない現実もあり、残念に思うこともあります。

子ども達が、無我夢中で取り組む遊びの時間が貴重なもので、価値の高いものであることを子どもの気持ちや思いを代弁して、社会に発信していきたいとの思いに駆られます。

子ども達に点数は付けられませんが、自ら遊びに取り組み、学びに向かう姿を目にし、一学期もたくさん遊んで、たくさん勉強したねと声を掛けたくになります。

厳しい暑さはしばらく続きそうですが、ご家庭で、ご家族でこそ得られる時間を一層深めていただけたらよいと願っています。健康には十分ご留意の上、お過ごしください。

(長南)



プール遊びをする中で、子どもの声から始まった、にじ組のいかだ作り。これでいい！と、できたいかだで遊びますが、すぐに壊れてしまいます。

どうやったら沈まないいかだになるかと、連日子ども達が意見を出し合って直していき、何回乗っても沈まない、壊れないいかだが出来ました！

大人が答えを出すことは簡単なことかもしれませんが、子どもが失敗しながらも、あれやこれやと考えを出し合って、その時に最適なことを見つけていくことの大切さを感じました。

子ども達が試行錯誤しながら気づき、実現しようとする姿を待つことができる大人でありたいです。

(主幹保育教諭 三ツ橋)